とくしま医師バンク通信ドクターカモンメールVoL.166（3月号）

1. 『入院調整本部での研修を終えて』

徳島大学病院 初期研修医2年次 板東夏生

徳島大学病院初期研修医2年次の板東夏生と申します。私が初期研修を開始した時と同じ頃から新型コロナウイルスが流行しておりますが、正直なところ、今まで腰を据えて診療に携わったことはありませんでした。今回、DMAT隊員など医療従事者に対して徳島県新型コロナウイルス入院調整本部への派遣依頼があったことを知り、一度しっかり携わりたいと思い研修をお願いしました。

入院調整本部では、主に新規陽性者の方々に電話問診で病状等を確認し、自宅療養が可能か、ホテルや病院での療養が必要かを判断し調整するといった業務を行いました。普段は対面での診察であり、電話での問診に不安を感じましたが、実際に問診を重ねるごとに、患者さんが話してくださる内容以外にも、普段は意識していなかった会話の雰囲気や会話中にみられる咳などの症状一つ一つを意識することで、思っていた以上に得られる情報が多いことを知りました。その他、病状や治療以外にも、家族、生活、仕事などの患者さんの不安に対応することも普段以上に多く、当初は新型コロナウイルス感染症の診療に携わることに息巻いていましたが、「病気ではなく人を診る」ということを改めて実感しました。

また、調整本部では県職員、DMAT、医師会、看護協会など多種多様な方々と共に働かせていただきました。日々感染状況が変化し、日によって働くスタッフも異なるなかで、業務を分担し、コミュニケーションを取りながら日々改善点を探し、患者さん一人一人に対応できるよう働くことは、今後も診療していくうえでチーム医療を意識する有意気な経験となりました。

最後になりましたが、急な研修依頼にも関わらず、お忙しい中研修の場を用意してくださり丁寧に指導してくださった入院調整本部の方々、ならびに貴重な経験の場を提案してくださった田岡病院の吉岡一夫院長、上山裕二先生に厚く御礼申し上げます。今回の経験を糧に精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。